

今後議論を深めていく必要がある事項

～はじめに～

- 高齢者やその家族（利用者）にとっての「安心」や「希望」とは、介護が必要な状態になっても、質の高い介護サービスが利用でき、また、尊厳をもって自立した生活を送れることである。
- 介護従事者（提供者）にとっての「安心」や「希望」とは、多職種協同の中で適切な介護が提供でき、また、自らの仕事に誇りを持てるような魅力ある環境（専門性の向上等）の中で、介護の仕事だけで生活設計が可能であることである。
- このような観点から、将来の介護の在るべき姿（ビジョン）について、「利用者の視点」、「提供者の視点」、「地域の視点」から、特に議論を深めていく必要があると考えられる事項を、以下のとおり抽出する。

～今後議論を深めていく必要がある事項～

1. 地域での生活を支えるための仕組みづくり

- ① 24時間安心して訪問介護・訪問看護を受けることができる仕組みづくりなど、介護サービスが必要な方が、「いつでも」「どこでも」サービスを受けることができる環境整備を進める方策を検討する必要があるのではないか。
- ② 医療関係者と介護関係者が連携し、地域ケアを推進するための場（会議）の創設、介護の現場で医療行為を円滑に実施することができるような資格の在り方の検討など、医療と介護の連携を強化する仕組みを検討する必要があるのではないか。
- ③ 認知症ケア体制の構築に係るモデル地域の選定、認知症ケアの標準化・高度化に向けた取組の推進など、医療と介護が連携し、認知症高齢者を地域で支えるための取組を進める方策を検討する必要があるのではないか。
- ④ 都市部と地方など地域の特性に応じて、高齢者の住まいの在り方、介護サービスの効果的な整備の在り方などを検討する必要があるのではないか。

- ⑤ 要介護の悪化を予防し、機能回復を促すためのリハビリテーションの意義を在宅、施設を問わず、より積極的に評価し、活用を促すための方策を検討する必要があるのではないか。

2. 介護従事者の処遇改善等

- ① 介護の仕事に従事していない有資格者の掘り起こしや、介護未経験者の積極的活用、介護従事者が継続的に働くことができるような勤務環境の整備など、需要の増加に見合うだけの介護従事者の確保を図るための方策を検討する必要があるのではないか。
- ② 介護従事者の処遇改善に資するような介護報酬の設定、介護従事者の処遇改善に積極的に取り組む事業者への支援、キャリアパスの確立など、介護従事者の処遇を改善し、介護従事者が誇りを持って働けるような環境整備を進める方策を検討する必要があるのではないか。
- ③ 経済連携協定（EPA）に基づき、新たに日本の介護施設で働くことになる外国人が、日本の介護従事者と一緒に、誇りを持って働けるような環境整備を進める方策を検討する必要があるのではないか。

3. 地域力の向上

- ① 住民の主体的参画による共助の活動が、高齢者の地域での生活を支える柱の一つであることを評価し、地域の高齢者を支えるための「介護サポーター」の養成など、地域全体で高齢者を支えていくための環境整備をより一層進める方策を検討する必要があるのではないか。
- ② 地域包括支援センターが、地域の「中核的な相談所」としての役割をより一層果たせるよう、地域包括支援センターの機能強化を図るための方策を検討する必要があるのではないか。

4. その他